

第1学年 組 道徳科学習指導案

日 時 令和2年 月 日 () 第5校時

生徒数 名

指導者 教諭 T 1

T 2

- 1 主題名 失敗のさきにあるもの 【内容項目A-(4) 克己と強い意志】
- 2 教材名 「小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦」 (『あすを生きる 第1学年』日本文教出版)
- 3 指導について

○ ねらいとする価値について

自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。しかし目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。逆境から立ち直り、目標に向かって努力し続けるには、困難や失敗を受け止めて希望や勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。困難や失敗があっても、それを乗り越えて最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。

(中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 第3章 道徳の内容 第4節 内容項目の概要 より)

中学生の段階では、失敗や困難に直面し簡単に挫折し物事を諦めてしまったり、挫折や失敗を悪いことのように捉え、見ないようにしたり、それを回避しようとして安易な選択をしてしまったりする。そこで、挑戦に失敗はつきものであり、失敗するからこそ得られる価値があることに気づかせたい。それを、前向きに力強く生きる意志に繋げたいと考え、本主題を設定した。

○ 生徒の実態について

本学級の生徒は今、新学期の目標立てや職業調べ、学年末試験の計画など、1つ1つのことに道筋を立て、行動を起こすべき時期にいる。しかし、うまくいかない現実と向き合わずにやり過ぎたり、簡単にあきらめたりする意志の弱さが感じられる。また、事前アンケートでは、失敗に対するイメージ、「トラウマになるもの」や「落ち込むもの」など、後ろ向きにとらえる傾向が強く出ていた。今回の授業において、「はやぶさ」のミッション成功までの過程を追ひ、川口さんの心情を考えることで「失敗」のイメージの転換を図りたい。

○ 教材について

本教材は、生徒にとって非日常的な「宇宙」を題材としている。小惑星探査機「はやぶさ」が地球から3億キロメートル以上はなれたところにある小惑星イトカワから微粒子を採取して帰った。この人類初の挑戦と成功の裏に、このプロジェクトのリーダー川口淳一郎さんの「失敗にめげず、絶対に諦めないで挑戦する気持ち」があったことを綴ったドキュメンタリーである。その気持ちは、日本初の火星探査機「のぞみ」の失敗など、試行錯誤を繰り返す長年の研究から生まれたものである。この教材を通して、川口さんの失敗をバネに挑戦し続ける姿から、目標実現のために希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、諦めずに取り組むことの大切さについて考えさせることができると思われる。

○ 指導にあたって

この教材は、「失敗」に対する概念を変えるところに大きな意味がある。そこで、本文にはない、川口さんがJAXAの研究理念として掲げている「宇宙開発に失敗はない」という言葉を取り上げ、その意味について考えさせたい。導入でドラマの名ゼリフを「失敗」のステレオタイプなイメージとして使い、これと川口さんの言葉を対比させることで、川口さんの言う、「失敗」は、むしろ成功につながる必要なものであるということを印象づけながら理解させたい。その上で、苦難を乗り越え研究を続ける川口さんの「背負っているもの」をグループで話し合わせ、この行為に含まれる多様な価値にふれさせたい。終末では、うまくいかないことを、日常生活での具体例として取り上げ、身近にあることに気付かせた後、それをどう受け止め、今後どう取り組むかということが、成長の鍵になるということを伝えたい。

4 本時について

(1) 本時のねらい：目標に向かって、困難や失敗を乗り越えようと努める意欲・態度を育てる。

(2) 展開

	学 習 活 動 主な発問(○◎), 学び合い活動(★)	引き出したい生徒の意見	教師の働きかけ(○)T2の動き 学び合い活動(★) 評価(◆)
導 入	1 本時の学習内容を知る ○失敗ってどんなイメージですか？ ○「私、○○しないので」の○○には何が入りますか？ ○「宇宙開発に○○はない」の○○には何が入りますか？	・嫌なイメージ ・やりたいことができない ・しない方がいい	○T1は電子黒板を操作する ○事前アンケートをもとに、失敗に対するイメージを生徒に想起させる。
／ 展 開	2 教材を読み、「失敗」について考える ○川口さんのプロジェクトはどんなことでしたか？ ○プロジェクトの途中で何がありましたか？ ○はやぶさが消息不明になったとき、川口さんはどんな気持ちだったでしょうか。 ○失敗経験があるのに、川口さんが、「宇宙開発に失敗はない」といったのはなぜでしょうか？	・失敗 ・失敗 ・はやぶさの打ち上げ ・イトカワの砂の採取 ・エンジンの故障 ・電波が途切れる ・はやぶさを見失う ・これまでの努力を無駄にしたくない ・諦めたくない ・絶対成功させたい ・のぞみの失敗は繰り返さない ・失敗ととらえていない ・失敗は成功につながる ・新しいことを学んだ ・成功のヒントになる	○身近にあるTVドラマを紹介し「失敗」という言葉に着目させる。 ○「宇宙開発に失敗はない」という川口さんの言葉に触れ、教材への興味を喚起する。 ○「はやぶさの道のり」を教科書(P.181)で確認し、宇宙開発は多額の費用がかかる。 ○T2は教材の範読を流す。 ○T2は生徒の意見を板書する。 ○成功の裏に数々の失敗があったことを確認する。

／ 終 末	3 道徳的価値について考える ★【学び合い】（グループ） ◎川口さんが背負っている ものは何だろう？ 4 今日の授業を振り返り、感想を書く	・乗り越えてきた経験 ・最後まで諦めない気持ち ・長年の研究 ・成功できると信じる気持ち ・研究者の意地 ・仲間の思い ・プレッシャー	○失敗を前向きに受け止め生かそうとする川口さんの心情を考えさせる。 ○机間指導をして、話し合いがスムーズにいくように声かけをする。 ○出た意見に対するやりとりで生徒自身の考えを掘り下げたり、実体験と重ねたりする。 ○今の自分から、「失敗」しておちこむ自分にどんな言葉をかけるか考えさせる。 ◆困難や失敗を乗り越えるために重要となる価値に気づくことができたか。 （WS：ワークシート） ◆自分と異なる意見を持つ人と対話することができたか。 （WS：ワークシート） ◆困難な出来事や失敗から得た経験を大切にしようとする意識が芽生えたか。 （WS：ワークシート）
----------------------	--	---	--